

CPHI Japan 2024（国際医薬品開発展）に日漢協が出展

2024年4月17日（水）から19日（金）までの3日間にわたり、東京ビッグサイト（江東区）において、CPHI Japan 2024（国際医薬品開発展、インファーママーケットツジャパン（株）主催）が開催された。本イベントは、毎年世界8か国で開催されている国際イベントで、創薬から製造までのサプライチェーンをカバーする国際医薬品開発展である。

今年で日本において21回目の開催を迎える CPHI Japan には、世界30の国や地域から720社に上る医薬品開発のサプライヤーが集結し、過去最大規模の開催となった。

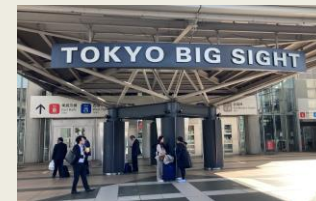
今回は、主催者よりフリーの当協会専用展示ブースが提供され、当日はアウトリーチチーム、一般用漢方製剤委員会、総務委員会および事務局が中心となり対応した。

期間中、以下の9名のスタッフが交替で対応を行った（敬称略）。

- 啓発アウトリーチチーム：高橋 隆二、永野 聡、平 雅代
西山 隆（代理）、中浜 孝
- 一般用漢方製剤委員会：松塚 泰之
- 総務委員会：柴田 和夫
- 事務局：町田 吉夫常務理事、栗村 芳之



【会場外の看板】



【会場エントランス】



【場内の様子】



【日漢協の展示ブース】

協会ブースでは、期間中、下記の5点をコンセプトに展示を行い、当協会の活動内容を紹介した。

【日漢協の展示コンセプト】

- | | |
|-----------------|----------------|
| ① 日漢協の概要、漢方の歴史等 | ④ 最近の漢方のエビデンス |
| ② 国内における生薬産地化 | ⑤ 漢方の将来ビジョン研究会 |
| ③ 一般市民への啓発活動 | |

当協会のブースには、中国、インド、韓国、欧米等から来られた製薬関係を中心とした起業家や医療・医薬関係者など、1日平均で約30名ほどが訪れた。来場者は、一般用漢方製剤（葛根湯・八味地黄丸）のパッケージ箱やパネルに興味を示し質問したり、日漢協ガイドや小冊子などの資料を手取るなど、漢方に対する関心の高さを伺わせた。質問は中国語、英語、韓国語などで投げかけられることも多く、スタッフは翻訳アプリを駆使したり、ジェスチャーを織り交ぜたりと、懸命に対応を行っていた。

なお、今回の来場者から多かった質問を以下に紹介する。

- ・一般用漢方製剤を自国でも販売したいがどうすればいいのか（中国の薬局関係者など）。
- ・漢方を通してコラボできる企業を紹介してほしい（中国やインドの起業家など）。
- ・100%天然の高麗人參を作って日本での販路を開拓したいが、提携する日本企業を紹介してほしい（韓国の起業家）。

今回開催された本イベントによる展示を通して漢方・生薬製剤の啓発につながるものと期待したい。



【来場者へ対応するスタッフ】